

第188回 学長定例記者会見

日時：令和8年2月19日（木）11：00～11：30

場所：広島大学 霞キャンパス 臨床管理棟3階 大会議室

（広島市南区霞1-2-3）

※ テレビ会議システムによる配信は行わない

※ YouTubeによる録画配信を実施

【発表事項】

1. 広島大学で初！  
第8回 日本オープンイノベーション大賞「文部科学大臣賞」を受賞！
2. イノベーション創出を目指す産学官連携新棟「Science Knot（サイエンスノット）」が完成！3月27日にオープンセレモニー実施予定
3. 令和9年度（2027年度）より、大学院の名称変更を検討  
「大学院人間社会科学研究科」を「大学院教育人文社会科学研究科」へ

【お知らせ事項】

1. 「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（通称J-PEAKS）」の取り組みに関する報告
2. 国際シンポジウム「戦略としてのインターンシップ」  
ー北米の大学における実践例ー（3/19開催）
3. 第30回広島放射光国際シンポジウム  
「放射光を活用した物質科学と生命科学研究の将来展望：  
HiSOR-II 高度化計画に向けて」を開催します（3/3-3/4開催）
4. 2025年度 HIRAKU-Global 年次大会開催のお知らせ  
ー 中国・四国地域から世界へ羽ばたく次世代研究リーダー ー  
(2/27開催)
5. どなたでも参加可能！第10回 広大きてみんセミナー  
「時間栄養学×フルーツ」を開催（3/14-3/15開催）  
～果物の健康効果を体験しながら、おやつ的重要性を学ぼう！～
6. 広島大学大学院人間社会科学研究科 造形芸術教育学領域、教育学部造形芸術系コース 修了・卒業制作展を開催します（2/17-2/22開催）

■次回の学長定例記者会見（予定）

日時： 令和8年3月24日（火）

場所： 広島大学 東広島キャンパス

令和 8 年 2 月 1 9 日

**広島大学で初！  
第 8 回 日本オープンイノベーション大賞「文部科学大臣賞」を受賞！**

広島大学は、第 8 回 日本オープンイノベーション大賞 において、「地方創生を加速する双方向循環型産学共創モデル — 技術知と人材の好循環を生み出す地域共創の新機軸 —」の取り組みが評価され、**文部科学大臣賞を受賞**しました。表彰式は 2026 年 2 月 9 日に東京の虎ノ門ヒルズフォーラムで開催されました。

本賞は産学官連携による優れたオープンイノベーションの取り組みを表彰し、我が国のイノベーション創出を加速することを目的として内閣府が実施しています。広島大学としては**同賞の受賞は初の快挙**です。

### 1. 受賞内容

賞名：文部科学大臣賞  
主催：内閣府

### 2. 受賞者

#### ■代表受賞者

山本 透（やまもと とおる）  
広島大学大学院先進理工系科学研究科 教授

#### ■主な受賞メンバー

脇谷 伸（わきたに しん）  
広島大学大学院先進理工系科学研究科 准教授  
木下 拓矢（きのした たくや）  
広島大学大学院先進理工系科学研究科 准教授  
坂元 康泰（さかもと やすひろ）  
デジタルものづくり教育研究センター 副センター長（特任教授）  
※所属・職名はいずれも受賞時点のものです。

### 3. 取り組みの目的

3つの社会課題（①産業人材育成と高等教育の質の向上、②科学技術・イノベーションの促進、③地方への人材定着と地方創生）への重点的かつ戦略的アプローチ。

#### 主な取り組みの内容

- ・広島大学の研究室、同学の連携拠点、広島県内の企業による「トライアングル型共創モデル」を構築。
- ・実証環境（テストベッド）の整備による社会実装の促進、学生/技術者合同セミナーでの研究開発力強化、さらに共同研究・共同研究講座を通じ

た社会人博士課程入学 や地域就職の促進等が特色。

- これらが、大学-企業間双方向の技術的知見と人材高度化の 好循環を生み、地域産業の競争力強化に貢献。

#### 4. 主な成果（2019年～2025年7月）

- 共同研究講座数：延べ38件
- 企業との共同特許数：延べ26件

#### 5. 審査における評価（要旨）

- 課題解決と人材育成を並行して進める新たな産学共創モデルとして高く評価
- 大学主導の地域連携としての発展性に期待
- 他分野への展開可能性を評価

#### 6. 今後の展開

本学は本モデルを基盤として、分野横断型連携の拡大、県内外企業との協働強化、国際展開を推進し、地域とともに成長する持続可能なイノベーション・エコシステムの構築を目指します。

### ○日本オープンイノベーション大賞(Japan Open Innovation Prize(JOIP))とは

2018年に内閣府がオープンイノベーションの推進と社会実装の加速を目的に始めた表彰制度。民間企業、大学、自治体などが連携し今後のロールモデルとして先導性や独創性の高いオープンイノベーションの取り組みを、分野ごとに大臣賞、長官賞、経済団体、学術団体の会長賞等で表彰し、その中で最も優れた取り組みに内閣総理大臣賞を贈る。2019年3月に第1回、2026年2月に第8回を開催。

#### <表彰の種類>

内閣総理大臣賞、科学技術政策担当大臣賞、総務大臣賞、文部科学大臣賞、厚生労働大臣賞、農林水産大臣賞、経済産業大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、スポーツ庁長官賞、日本経済団体連合会会長賞、日本学術会議会長賞、選考委員会特別賞

内閣府日本オープンイノベーション大賞

<https://www8.cao.go.jp/cstp/openinnovation/prize/index.html>

#### 【お問い合わせ先】

広島大学大学院先進理工系科学研究科 スマートイノベーションプログラム（システム制御論研究室） 教授 山本 透 TEL：082-424-7672 Mail：yama@hiroshima-u.ac.jp
---

# 第8回 日本オーブナイノベーション大賞 受賞者一覧

賞名	取組・プロジェクト名称	応募機関
内閣総理大臣賞	「もう一度、話す喜びを！」ニッチだがアンダートーンズに対峙した臨床家のオーブナイノベーションの挑戦	(株) 東京医歯学総合研究所、東京科学大学、三洲電線(株)、富士システムズ(株)
科学技術政策担当大臣賞	ロボット手術で血管テーピングを安全・円滑に行う革新的デバイス「ヴァスガイド」の開発とそ の臨床応用	徳島大学病院
総務大臣賞	デジタルインフラと地球環境の両立する洋上データセンター	日本郵船(株)、(株)NTTアシアシイティーズ、(株)ユーラスエナジーホールディングス、(株)三菱UFJ銀行、横浜市
文部科学大臣賞	地方創生を加速する双方向循環型産学共創モデル -技術知と人材の好循環を生み出す地域共創の新機軸-	広島大学
厚生労働大臣賞	産学官連携による世界初の歯周病治療器「ブルージャカル P-01」・ 行動変容アプリ「パピルミル」の社会実装	Luke(株)、東北大学
農林水産大臣賞	スカブター：AI・AR 技術による非接触型体重推定デバイスの社会実装	国立大学法人宮崎大学
経済産業大臣賞	アカデミアと企業の連携による抗COVID-19薬の開発研究と社会実装	北海道大学、塩野義製薬(株)
国土交通大臣賞	共同輸送データベースの普及による持続可能な物流 ～フィジカルインターネットの実現	(一社) 運輸デジタルビジネス協議会、 (株)traevo
環境大臣賞	産学官連携によるフードロス削減と食品端材の再価値化による 持続可能な共創モデルの構築	(株)吉野家ホールディングス、ASTRA FOOD PLAN(株)、女子栄養大学、埼玉県、 (国研) 農業・食品産業技術総合研究機構、興 和(株)、エネックス(株)
スポーツ庁長官賞	ミノムシ由来強靱繊維を活用したスポーツ構造材の開発	(株)日立製作所、東京大学
日本経済団体連合会会長賞	ビジョン共有で社会課題を解決する新たな産学協創モデル「日立東大ラボ」	京都大学
日本学術会議会長賞	分野も組織も世代も越える研究ポスター発表形式 (通称:100 人論文) による 本質対話とマッチング創出	
選考委員会特別賞	産学官連携による防災研究「ウォーターチェンジャー®」の社会実装プロセス ～能登半島 地震被災地で活躍した新潟県企業から生まれたトイレカー「リバイオ」の誕生～	長岡技術科学大学、ユニトライク(株)、東京電力 ホールディングス(株)、AQVANA(株)、(株)ニトク
選考委員会特別賞	民間から実務家教員を登用する新しい産学連携人材育成モデル 最先端の知見を伝え、デジタル人材不足の解消へ	(株)ピズリーチ、(独法) 国立高等専門学校機構
選考委員会特別賞	北の大地を拓く！JAつづ×北見工業大学 オホーツク地域を潤すスマート農業イノベーション	津別町農業協同組合、北見工業大学、NTT ドコ モビリティ(株)、(株)Jユウホー

地方創生を加速する双方向循環型産学共創モデル  
-技術知と人材の好循環を生み出す地域共創の新機軸-

国立大学法人広島大学 副理事(産学連携担当)/大学院先進理工系科学研究科 教授/デジタルものづくり教育研究センター 一部門長 山本 透、大学院先進理工系科学研究科 准教授/一般社団法人デジケーション 代表理事 脇谷 伸、大学院先進理工系科学研究科 准教授 木下拓矢、デジタルものづくり教育研究センター 副センター長(特任教授) 坂元 康泰

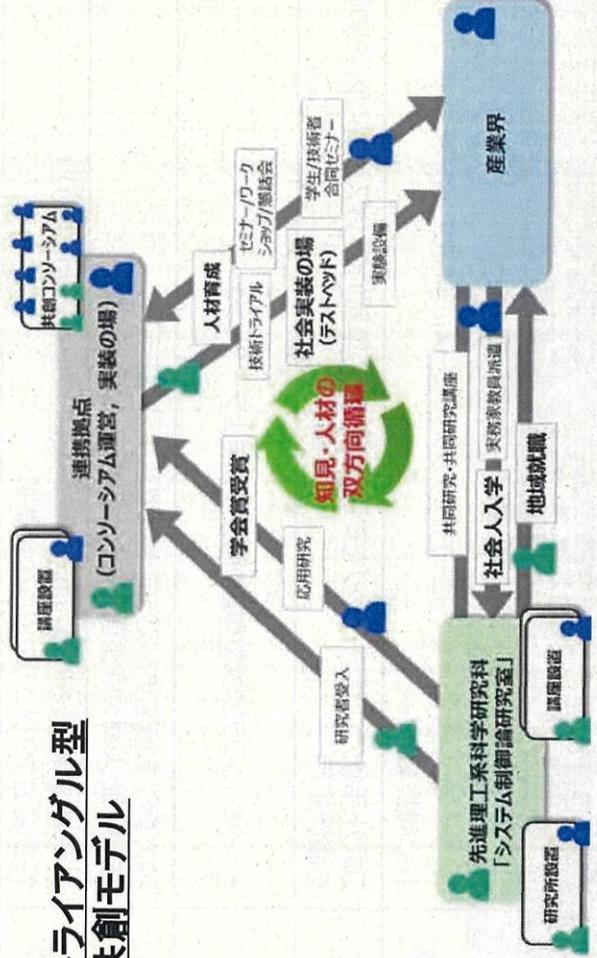
地方の課題解決と人材育成を同時に実現する循環システム

【目的】 3つの社会課題(①産業人材育成と高等教育の質の向上、②科学技術・イノベーションの促進、③地方への人材定着と地方創生)への重点的かつ戦略的アプローチ。

【内容】 広島大学の研究室、同学の連携拠点、広島県内の企業による「トライアングル型共創モデル」を構築。実証環境(テストベッド)の整備による社会実装の促進、学生/技術者合同セミナーでの研究開発力強化、さらに共同研究・共同研究講座を通じた社会人博士課程入学や地域就職の促進等が特色。これらが、大学-企業間双方向の技術的知見と人材高度化の好循環を生み、地域産業の競争力強化に貢献。

【効果】 共同研究講座数 延べ38件、企業との共同特許数 延べ26件 (2019～2025年7月)

トライアングル型  
共創モデル



審査員コメント

- ▶ 企業が持ち込む課題解決と人材育成を並行して行う仕組みを新たな産学共創モデルとして実装
- ▶ 大学主導での地域連携として、参画企業数も着実に増加している点も評価できるが、他分野への展開も期待

令和 8 年 2 月 1 9 日

イノベーション創出を目指す産学官連携新棟  
「Science Knot (サイエンス ノット)」が完成！  
3 月 27 日にオープンセレモニー実施予定

本学では、J-PEAKS の重点拠点である WPI-SKCM<sup>2</sup> (超物質拠点) において、研究棟と産学官共同研究棟を一体化した新棟を、2026 年 1 月 23 日に完成 (竣工) しました。

本新棟は、総勢 100 人以上の研究者がアンダーワンルーフで研究活動を行うことができる研究棟 (6 階建て・延床面積約 3,400 m<sup>2</sup>) と、社会実装およびイノベーション創出を目的とした産学官共同研究棟 (6 階建て・延床面積約 2,600 m<sup>2</sup>) から構成される合築棟です。

さまざまな科学分野の知を結び付け、新たな価値創出につなげる「結び目 (Knot)」として、また、J-PEAKS が掲げる「異分野融合イノベーションエコシステム拠点」の中核施設となることを目指し、本新棟は「Science Knot (サイエンス ノット)」と命名されました。

なお、3 月 27 日 (金) に関所式 (セレモニー) を実施予定ですので、詳細が決まり次第改めてお知らせいたします。

#### ■新棟 (Science Knot) の主な機能・施設構成 (予定)

##### 1 階

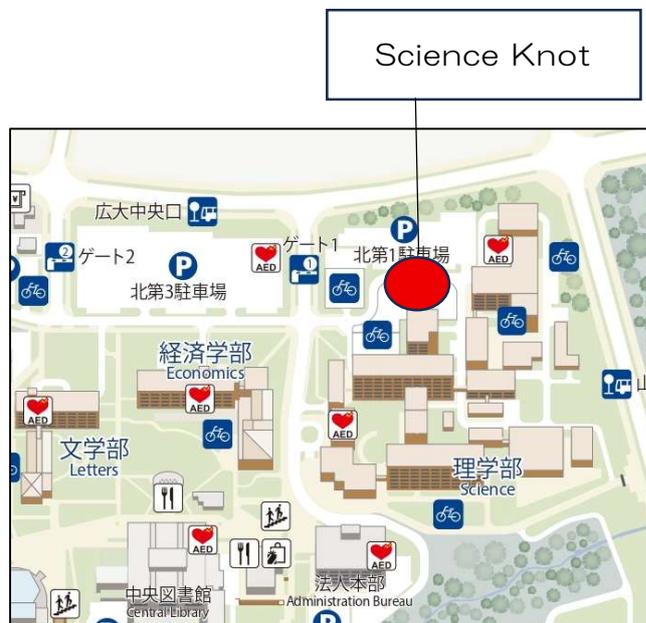
交流ロビー、Web 会議ブース、社会との双方向的対話を促進するアウトリーチスペースを整備するとともに、共同研究に利用可能な電子顕微鏡およびクリーンルームなどの研究設備を設置しています。

##### 2 階

研究シーズ創出からスタートアップ、産学官連携への展開までを支援するため、産学連携・研究支援を担う専門スタッフのインキュベーションオフィスと、国際会議にも対応可能な大会議室を備えています。

##### 3 階～5 階

オープンイノベーションラボとして、共同研究パートナーとなる企業が 15 社入居可能な研究スペースを整備し、研究者と企業の交流・協働を促進するクロススペースを設けています。



【お問い合わせ先】

学術・社会連携室  
未来共創科学研究本部  
研究戦略部 研究戦略グループ ー木  
TEL:082-424-5860  
Mail : [gakujutu-strategy@office.hiroshima-u.ac.jp](mailto:gakujutu-strategy@office.hiroshima-u.ac.jp)

令和 8 年 2 月 1 9 日

**令和 9（2027）年度より大学院の名称変更を検討  
「大学院人間社会科学研究科」を「大学院教育人文社会科学研究科」へ**

広島大学大学院人間社会科学研究科は、教育科学、人文科学、社会科学という 3 つの柱を明確に示すことを目的として、令和 9(2027)年 4 月に「教育人文社会科学研究科」への名称変更及び学位プログラムの一部再編を構想中です。令和 8(2026)年度に実施する令和 9(2027)年度入学者選抜の合格者は、名称変更後の研究科(専攻)に入学することになります。

なお、本構想は、現在、文部科学省に申請中のため、今後、変更となる可能性があります。

**■ 名称変更の概要**

- 現行名称：大学院人間社会科学研究科
- 変更後名称（予定）：大学院教育人文社会科学研究科
- 変更時期（予定）：令和 9（2027）年 4 月
- 対象：令和 9（2027）年度以降の入学者

**■ 名称変更の理由**

・令和 2 年度の「人間社会科学研究科」設置時は、「教育」と「人文」の 2 領域を「人間」という抽象的概念に内包していました。しかしながら、国内外における学術・社会環境では、専門性の明示と領域間の融合・連携の両立が求められるようになってきています。

そのため、本研究科では、令和 9 年度から、博士課程後期課程に教職大学院修了生を主な対象とする学位プログラム「教職実践学プログラム」を設置するなど教育科学を重点化することから、「人間」を「教育」と「人文」に分け、教育科学、人文科学、社会科学という 3 つの柱を明確に示すため、研究科の名称を、「教育人文社会科学研究科」に変更します。

**■ 在学生への対応**

・研究科の名称変更は、令和 9 年度入学者から適用するものであり、在学生（令和 8 年度以前入学者）については、修了まで入学時の研究科名称となります。在学生に対しては、改めて、研究科の名称変更を周知する予定です。

また、本学ウェブサイトにおいても掲載する予定であり、保護者を含む学内外の関係者へも周知します。

現 行	名 称 変 更 後
<b>人間社会科学部研究科</b>	<b>教育人文社会科学部研究科</b>
<b>博士課程前期</b>	<b>博士課程前期</b>
人文社会科学専攻 人文学プログラム 心理学プログラム 法学・政治学プログラム 経済学プログラム マネジメントプログラム ソーシャルデータサイエンスプログラム 国際平和共生プログラム 国際経済開発プログラム 人間総合科学プログラム	人文社会科学専攻 人文学プログラム 心理学プログラム 法学・政治学プログラム 経済学・経営学プログラム ソーシャルデータサイエンスプログラム 国際平和共生プログラム 政策科学プログラム 人間総合科学プログラム
教育科学専攻 教師教育デザイン学プログラム 教育データサイエンスプログラム 教育学プログラム 日本語教育学プログラム 国際教育開発プログラム	教育科学専攻 教授学習科学プログラム 教育データサイエンスプログラム 教育学プログラム 日本語教育学プログラム 国際教育開発プログラム
<b>博士課程後期</b>	<b>博士課程後期</b>
人文社会科学専攻 人文学プログラム 心理学プログラム 法学・政治学プログラム 経済学プログラム マネジメントプログラム 国際平和共生プログラム 国際経済開発プログラム 人間総合科学プログラム	人文社会科学専攻 人文学プログラム 心理学プログラム 法学・政治学プログラム 経済学・経営学プログラム ソーシャルデータサイエンスプログラム 新設 国際平和共生プログラム 政策科学プログラム 人間総合科学プログラム
教育科学専攻 教師教育デザイン学プログラム 教育学プログラム 日本語教育学プログラム 国際教育開発プログラム	教育科学専攻 教職実践学プログラム 新設 教授学習科学プログラム 教育データサイエンスプログラム 新設 教育学プログラム 日本語教育学プログラム 国際教育開発プログラム
<b>専門職学位課程</b>	<b>専門職学位課程</b>
教職開発専攻 教職開発プログラム	教職開発専攻 教職開発プログラム
実務法学専攻 実務法学プログラム	実務法学専攻 実務法学プログラム
<b>修士課程</b>	<b>修士課程</b>
広島大学・グラーツ大学国際連携サステイナビリティ学専攻	広島大学・グラーツ大学国際連携サステイナビリティ学専攻

【お問い合わせ先】

教育学系総括支援室  
 TEL:082-424-6705  
 Mail: ed-sou-jin@office.hiroshima-u.ac.jp